



道道42号線から見る新八雲(仮称)駅高架橋工区。写真右が札幌方。白い養生上屋が整然と並ぶ様子が見える。

あしを つくる 新幹線を

Vol.48

鉄道・運輸機構(JRTT)は、北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の建設主体として、北海道新幹線の整備事業を進めています。



八雲町内の「明かり区間」の工事状況をご紹介します

北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)は、線路延長212kmのうち、約80%がトンネル区間となっているのが特徴ですが、トンネル以外の周囲が開けた区間を「明かり区間」といいます。今回は、八雲町内で工事が進む明かり区間の状況をご紹介します。

明かり区間の工事は、常に自然環境の影響を受けることが課題です。とくに北海道の冬季はご存知の通り、毎年必ず積雪し、最高気温でも零下となる日も珍しくありません。この厳しい自然環境の下でも、安全と品質を確保して新幹線工事を進めなければなりません。

工事で用いるコンクリートは、セメントと水、砂、砂利などを混ぜ合わせ、セメントと水が起す化学反応(水和反応)によって硬化します。しかし、コンクリートを施工した後に、気温の低い状態が続き水分が凍結してしまうと、コンクリート内の水和反応が阻害されたり、水分自体の凍結膨張でコンクリートにひび割れや剥落が生じる原因となることもあり、コンクリートの強度や耐久性に悪影響を与えてしまいます。

そのため、冬季でも工程上の理由等から施工が必要な箇所においては、健全なコンクリートが施工できるよう、施工する数日前から全覆い型の上屋を設置し、氷雪の浸入を防ぐとともに、上屋内を暖房して施工環境を整えたり、さらに施工後も、硬化に必要な一定期間は温度湿度を維持し、コンクリートの品質低下を招かぬよう管理を徹底しています。

今後も難しい工事が続きますが、一日も早い開業に向けて最大限努力してまいります。



大新(おおしん)高架橋工区。写真右が札幌方。写真左の、雪が残る丘の上に立つのは八雲育成牧場展望台。



同じく大新高架橋工区。写真左が札幌方。なだらかな傾斜の牧草地を、橋脚がその脚の長さを変えながら立つ。

Instagram



最新の建設情報は
こちらよりご覧いただけます。